

### 資料3 地質調査結果



図 1-1 調査位置図 (S=1:25,000)  
(国土地理院の地理院地図を使用)

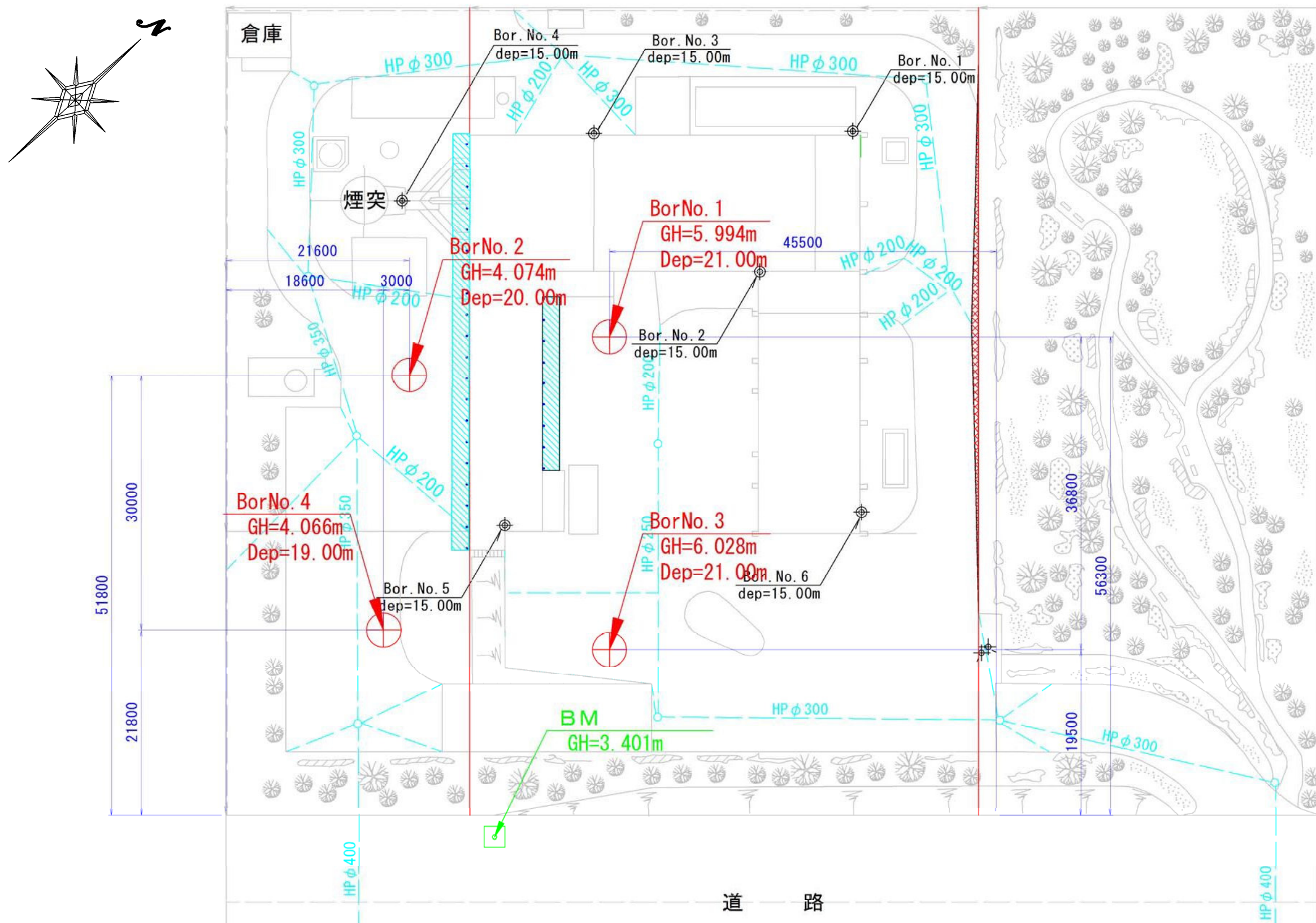
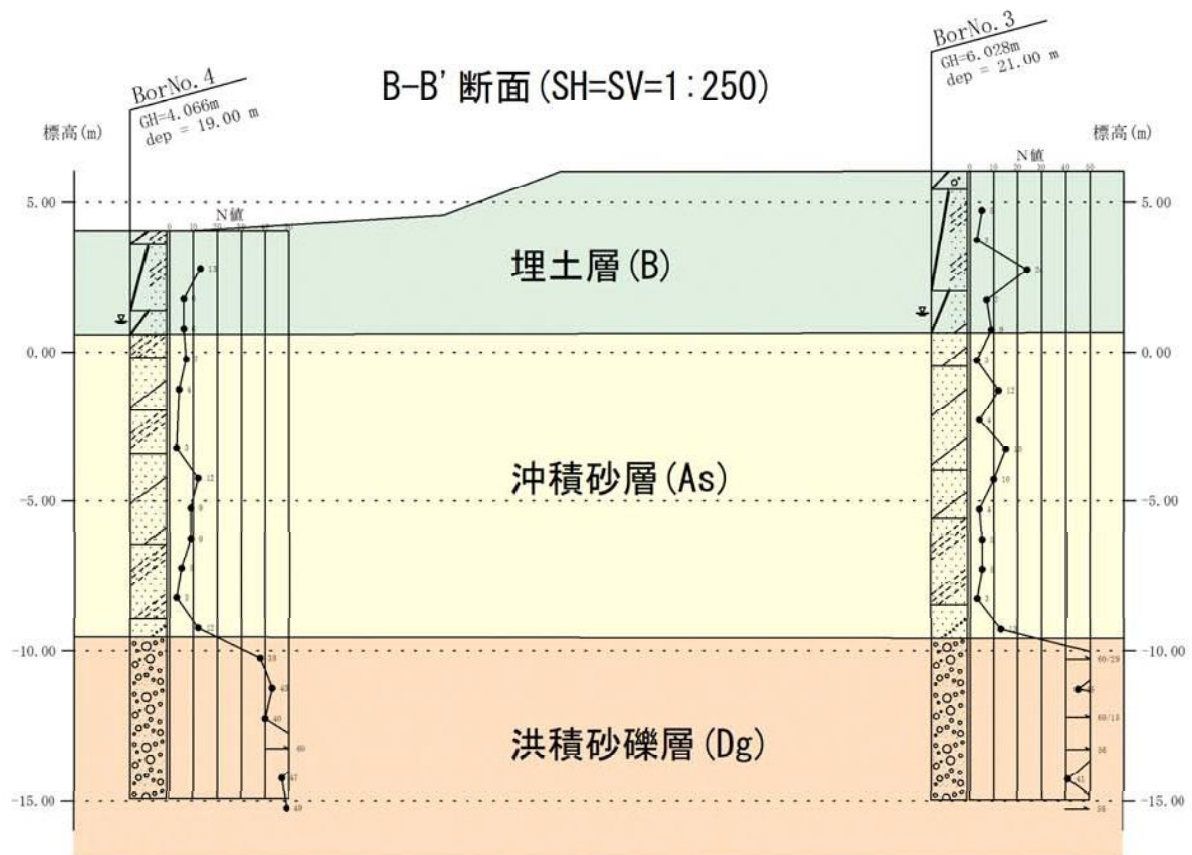
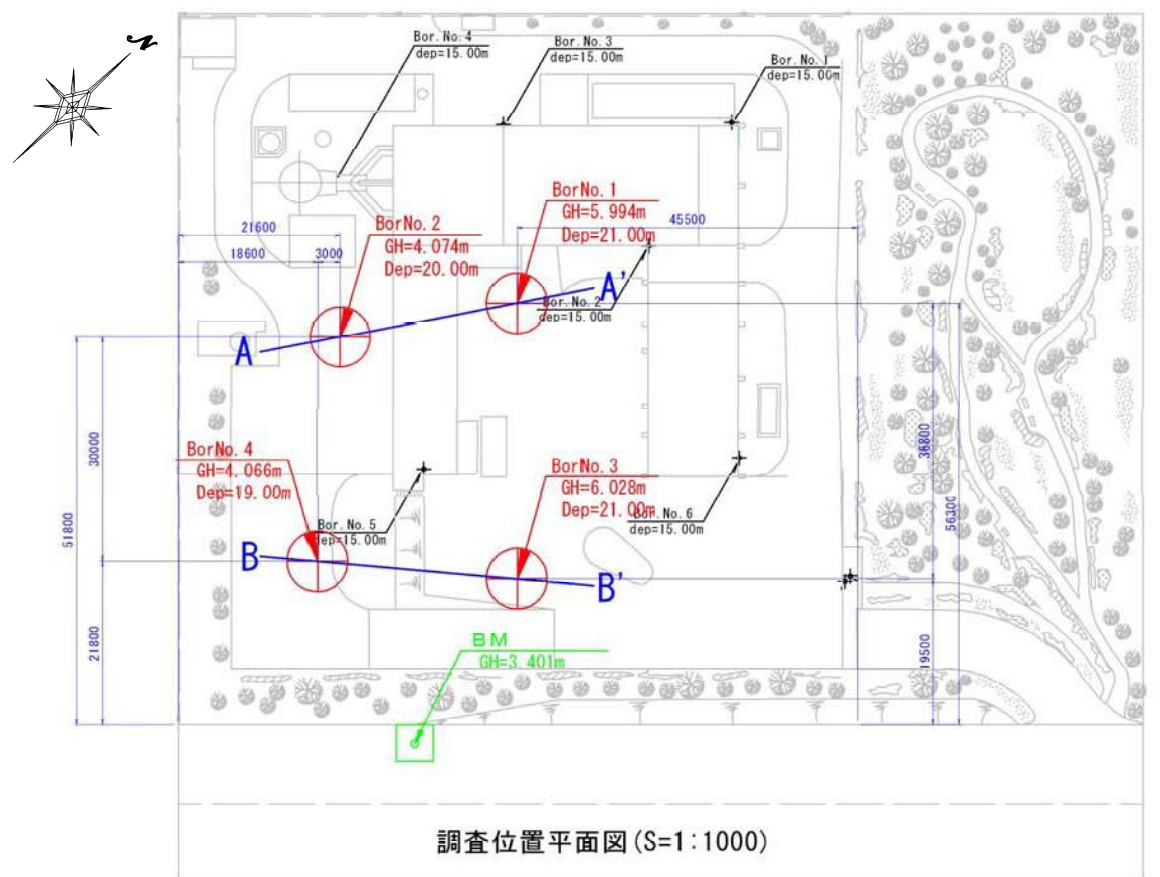
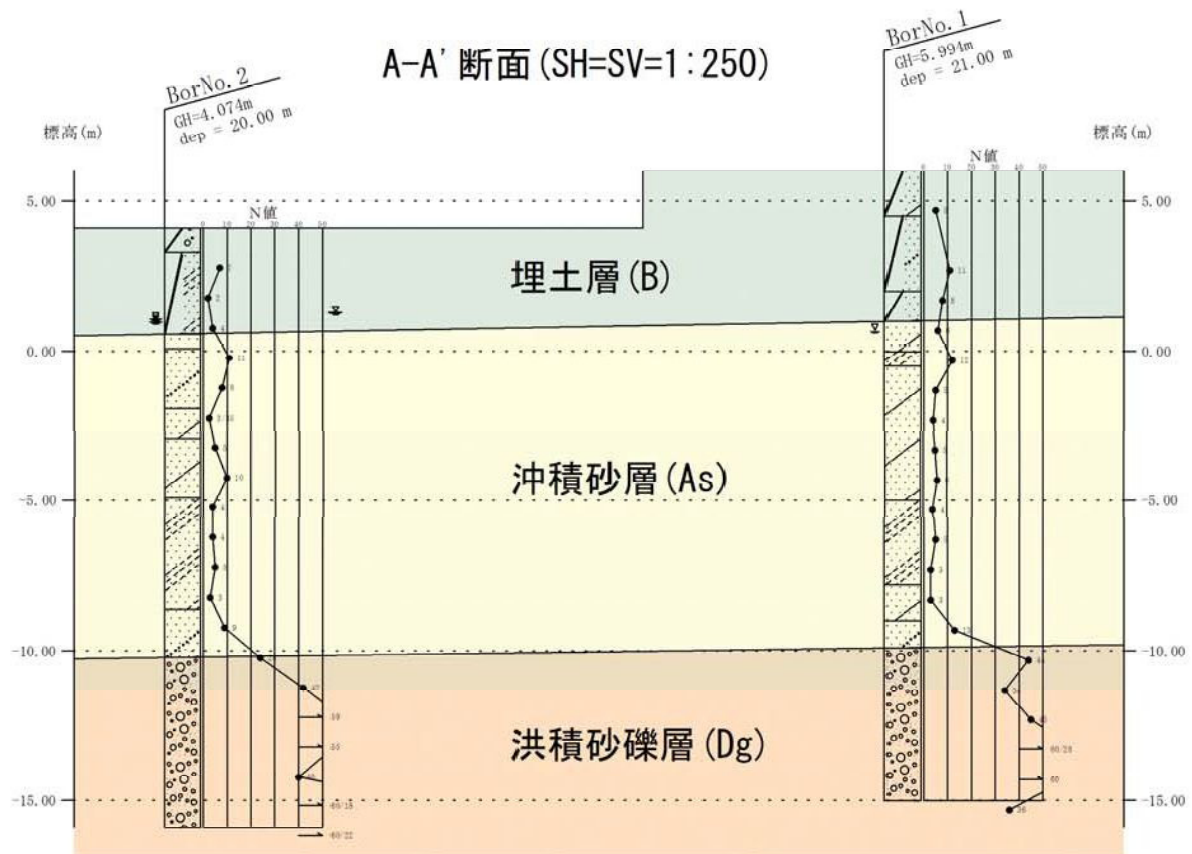


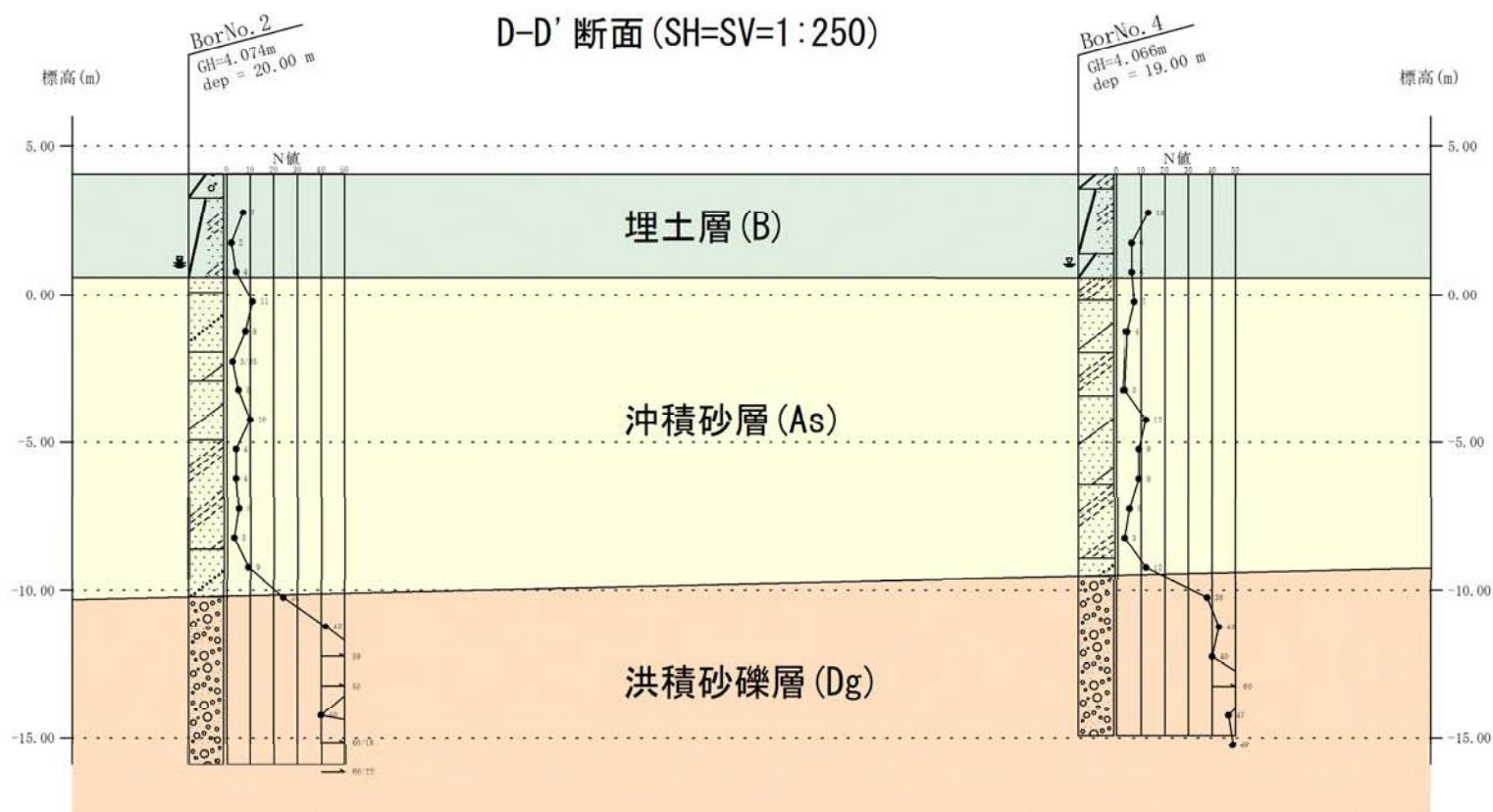
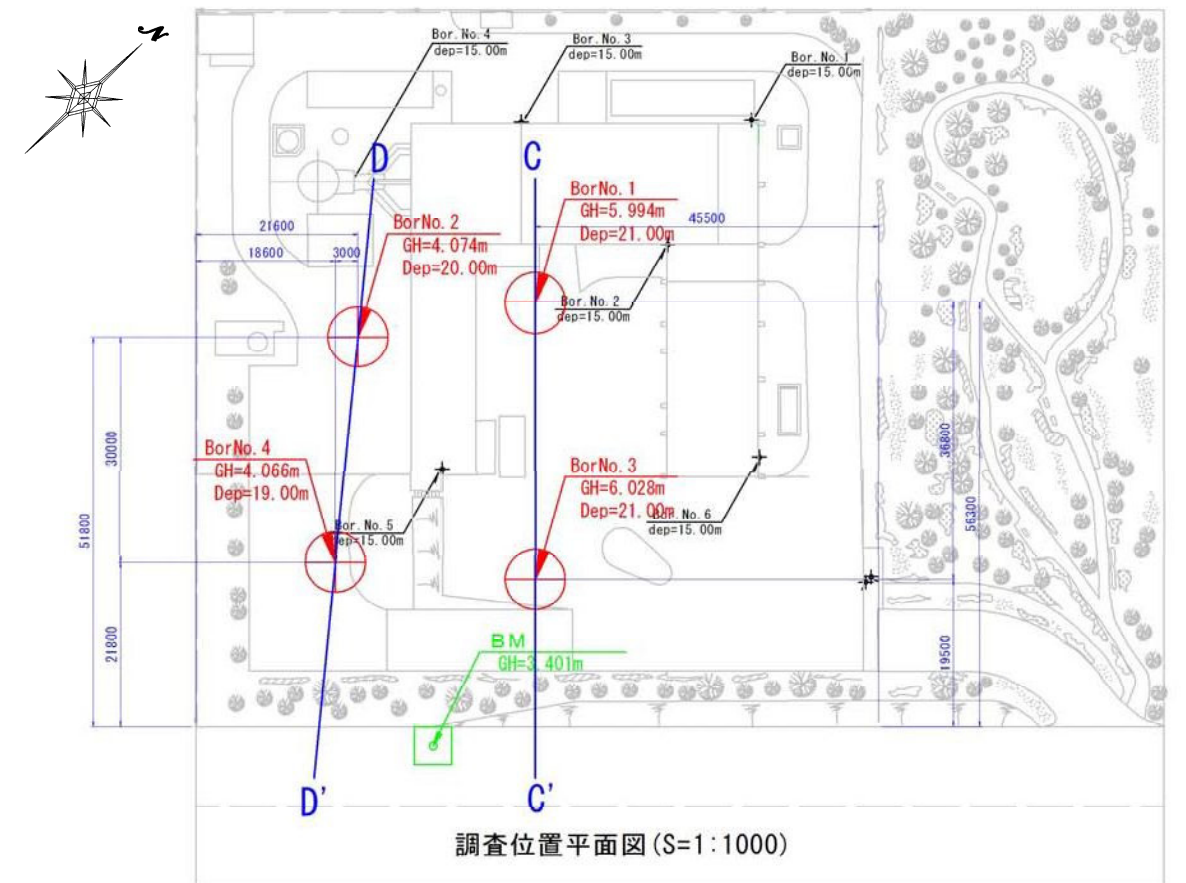
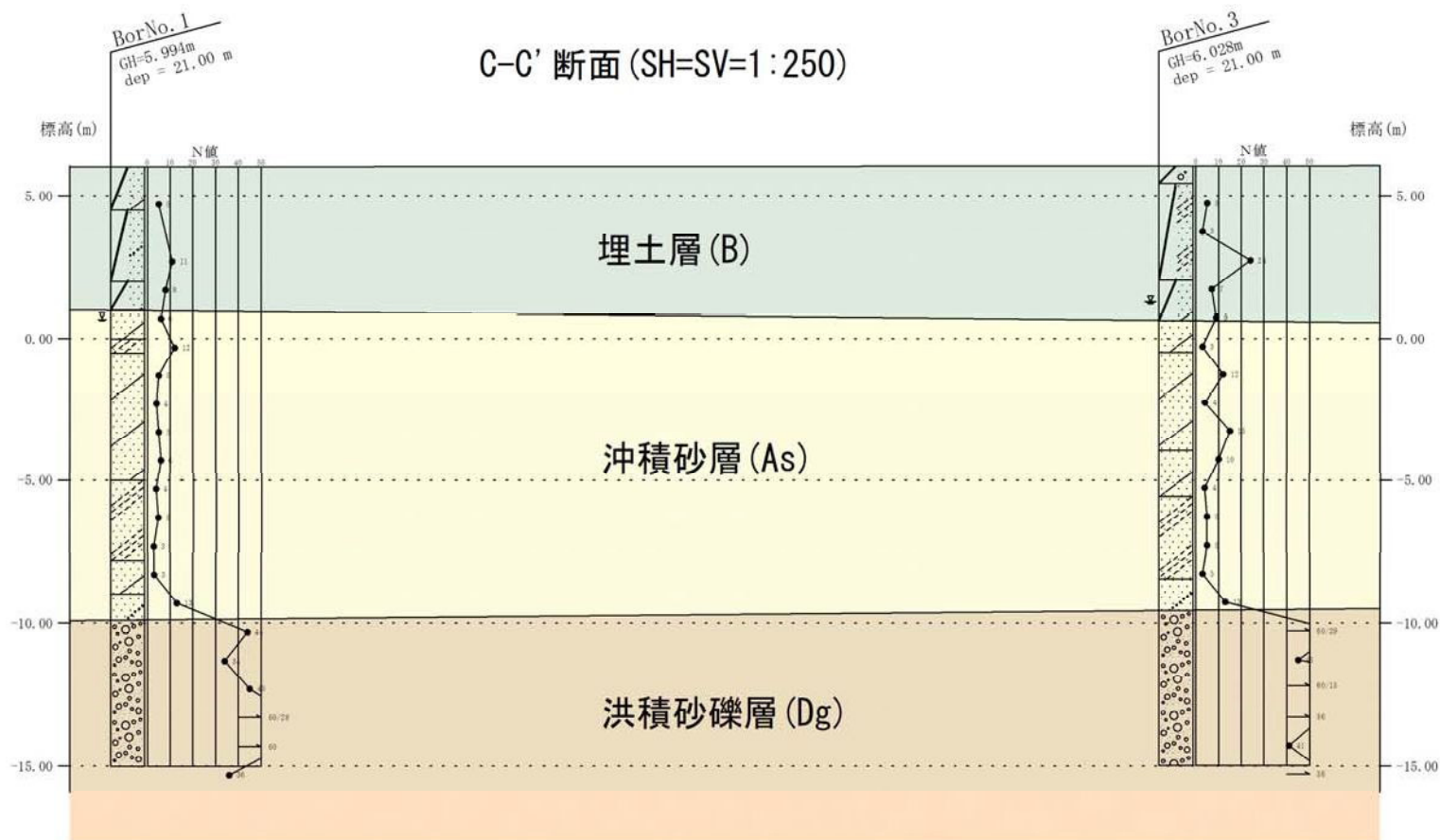
図 3-4 ボーリング調査位置平面図 (S=1:500)



凡例

地質時代		地層区分	記号
新生代	第四紀	埋土層	B
		沖積砂層	As
		洪積砂礫層	Dg

図 3-5 地層断面図(その 1)



凡例

地質時代		地層区分	記号
新生代	第四紀	埋土層	B
		沖積砂層	As
	更新世	洪積砂礫層	Dg

図 3-6 地層断面図(その 2)

粒化相」を示す。しかし、局部的に有機物を多量に混入するシルト質砂～砂質シルトを不規則に介在している。また、沖積層の基底部となる下端部は礫混じり砂層が最大 1.60m の層厚をもって分布する。下端面は埋土層(B)と同様に若干南西方向に傾斜しているが、ほぼ平坦である。

N 値は N=3～15、概ね N=6 前後と「緩い」相対密度を示す。

### 3) 洪積砂礫層 (Dg) GL-3.60m 以深 (GH=-9.53m 以深)

φ max70mm、概ね φ 40mm 程度までの角～亜角礫と、その間隙を埋める中～粗砂で構成される。礫の混入量は深度により多少増減の変化が認められる。混入礫種は後背地質を反映し、結晶片岩・ホルンフェルス・火山岩類(安山岩)が多いが、調査深度下端付近では一部クサリ礫化した花崗岩を含み、基質も流れマサ土状を呈することから、基盤の花崗岩の出現に近い可能性がある。全体的に掘削中は漏水を伴い、一部で孔壁の崩壊性が高い。

N 値は N=31 以上を示し、N 値の上限を 60 回とすると概ね N=49 前後と「密な」相対密度を示す。

### ※地下水位について

各地点の地下水位測定結果を以下に要約して示す。

表 3-2 地下水位測定結果一覧表

試錐番号 (BorNo)	地下水位		備 考
	GL-m	GH m	
1	5.30	0.69	12/27AM8:30 GL-16m 掘削翌朝水位(潮位 121)
2	3.10	0.97	12/19AM10:00 無水掘り確認水位(潮位 154)
3	4.75	1.28	12/21AM9:30 無水掘り確認水位(潮位 258)
4	3.05	1.02	1/7AM9:30 無水掘り確認水位(潮位 289)

以上のように地下水位は最大 0.59m の変動が見られ、一時的な可能性もあるが、潮位が高い時間では高く、潮位が低い時間では低い、いわゆる潮の干満の影響を受けて若干変動していると判断される。ただし、その変動幅は潮位の 1/3 程度に減衰しており、少なからずタイムラグも有していると推察される。